

インフォメーション

お問い合わせ：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010 / FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp

★マチノフWEEK まちづくりのアイデア広場 「触れる」「交わる」「考える」
日時：2016年11月3日(木・祝)～11月6日(日)

会場：仙台市市民活動サポートセンター
4日間にわたり、まちづくりを担う多様な主体と連携し、仙台で行われている協働の取り組みや県内外のまちづくりの事例を、トークイベント、ワークショップ、展示など、日替わり企画で紹介するイベントを開催します。

期間中のイチオシを、ご紹介！

触れる “わたくしごと”に潜む、社会を動かすチカラ ～ハジマルフクラムプロジェクト～

日時：11月3日(木・祝)午後3時～午後5時 会場：4階 研修室5 参加費：無料 定員：30名 要申込
ゲスト：鶴岡ナリワイプロジェクト 代表 井東敬子さん OPEN SPACE KIKO 主宰 勝水与茶さん カワラバン 代表 菅原正徳さん
自分の好きなことや、得意なことは実は地域の課題解決に必要なチカラ。山形県鶴岡市で、女性が自分の好きなことで町の小さな課題を解決するスモールビジネス＝ナリワイを創る方や、仙台市で「人が好き」「川が好き」を出発点に活動する方々をお招きします。自分を起点に「私」を開き、「公共」へ多彩なインパクトをもたらしている事例から“わたくしごと”と地域のつながりを考えるトークイベントです。

考える ソーシャルインパクト
～社会的成果を生み、持続可能な活動を維持していくための経営戦略とは～

日時：11月4日(金) 午後3時～午後6時
会場：6階 セミナーホール
ゲスト：株式会社PubliCo 代表取締役COO 山元圭太さん
定員：50名 要申込み 参加費：無料
内容：活動のめざすソーシャルインパクト(社会的成果)について理解し、自団体の活動を、より社会を変えるアクションに転換するための考え方を学べる講座です。「限られた資源でいかに成果を生み出すか」「活動を持続可能にするためにどうするか」など、ソーシャルインパクトを意識した組織運営・事業展開のポイントや方法についてお話しします。

他にもイベント盛りだくさん。多彩なアクションに、「触れて」感じ、様々な思いや価値観と「交わり」ながら、人と地域と社会とのつながりを「考える」場にぜひご参加ください。詳しくは、ホームページやチラシ等で随時お知らせします。
お申込みフォーム：www.sapo-sen.jp 先着順にて受付し、定員になり次第締め切ります。サポセンホームページに設置した申込みフォームよりお申込みください。サポセン窓口・TEL・FAXでも承ります。※いただいた個人情報は、本事業企画およびサポセンの事業以外では仕様いたしません。

交わる NETWORKING TIME ヨナヨナ

日時：11月3日(木・祝)午後4時～午後6時 11月4日(金)午後7時～午後9時
11月5日(土)午後6時～午後8時 11月6日(日)午後4時30分～午後6時
会場：地下1階 市民活動シアター
参加費：1,000円(2ドリンク) 定員：50名
内容：マチノフWEEKのゲストや参加者が集う交流会を、夜な夜な開催します。16もの企画が行われる4日間、毎日多彩なゲストが出演し、多様な方々が参加します。企画を横断する新たな出会いがまちづくりのアイデアに化学変化を起こすかもしれません。お気軽にお立ち寄りください。

仙台市から

使用料改訂のお知らせ

仙台市では、市民利用施設使用料の見直しを実施し、仙台市市民活動サポートセンターについても、平成28年10月1日(土)から使用料が改定されました。詳しくは、仙台市ホームページをご覧ください。HP http://www.city.sendai.jp/manabu/shimin/support/1221459_2615.html

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください

ボランティア活動をしたい/団体を立ち上げたい/組織運営の悩みを解決したい/他の団体や他のセクターと連携したい/自分のスキルを地域や社会に役立てたい...

今月の休館日：10月12日(水)・26日(水)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00
日曜日・祝日 9:00-18:00
休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日)年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042
地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ/地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分
[HP]<http://www.sapo-sen.jp> [Blog] <http://blog.canpan.info/fukkou/> [Twitter]@sensapao

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間2015年4月1日～2020年3月31日]

市民ライターが仙台の市民団体を取材しに行きます！
<https://kacco.kahoku.co.jp/author/writer>

情報ボランティア@仙台の学生記者がワクワクビトを取材しています！
<https://kacco.kahoku.co.jp/author/volunteer16>

▶「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。
▶ぱれっとに関するご意見をお寄せください。

[ぱれっと読者アンケート]サポセンホームページからアクセス
いただくか、携帯電話等でQRコードを読み取ってご利用ください。



発行 仙台市市民活動サポートセンター
発行日 2016年10月1日
編集 特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター
デザイン PEACE Inc.
編集人 菊地竜生 太田貴 菅野祥子 葛西淳子 松村翔子 黒川夕紀
発行部数 3000部
配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

ぱれっと 10

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2016 No.206

“ぱれっと”には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

今月の
ワクワク
ビト
SENDAI COFFEE STAND
ほんごう こういち
本郷 紘一 さん (33)

仙台の魅力伝え、よりよい街に

仙台の街を自転車で駆け回り、自慢のコーヒーを提供する風変わりな店があります。SENDAI COFFEE STAND。店主の本郷紘一さんは青葉区国分町に構えた実店舗に加え、自転車での移動販売にも励みます。「仙台にあるたぐさんの魅力を、みんなに気付いてほしくて」。おいしいコーヒーがあれば、出会った人同士で会話が盛り上がるかもしれません。見慣れたケヤキ並木が違って見えるかもしれません。本郷さんはそんな願いを胸に、一杯のコーヒーを届けています。「街の力になりたい」と思ったのは高校生の時でした。音楽イベントの運営に奔走する大学生ボランティアの姿に、「自分以外の誰かのために汗する格好良さ」を知りました。気の合う仲間と構想を温め2015年、今の店を立ち上げました。「うちのコーヒーじゃなくてもいいんです。人と人、人と街をつなげるきっかけになれるなら」。だから、コーヒー通をうならせる味があっても、掲げるキャッチフレーズは「一杯のコーヒーで街を豊かに」と控え目です。「仙台の魅力を知り、誇りを持って暮らす人が増えることが、そのまま街の豊かさにつながると思うから」。たとえ周囲が無謀と思うチャレンジも、その成否は行動の先でしか分かりません。街のために汗する心地良さを、周囲にじんわり伝え広める伝道師のように、本郷さんは今日もペダルをこぎます。

取材・文 石田 優衣(宮城大4年)
加藤 里香(宮城学院女子大3年)

特集

食が結ぶ、地域のおいしい関係

SENDAI EAST KITCHEN

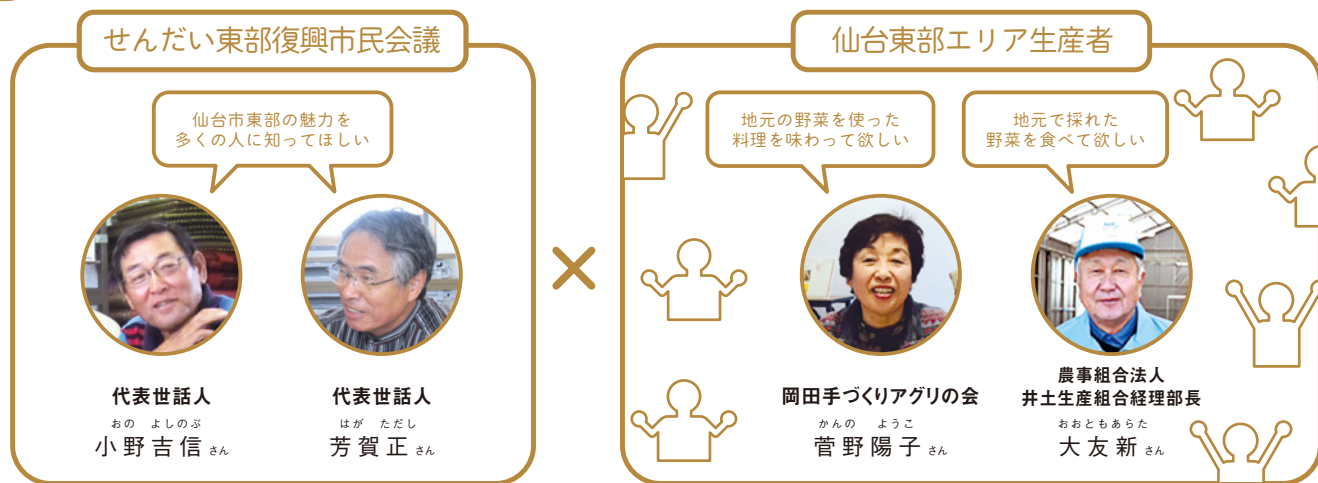
SENDAI COFFEE STAND (センダイコーヒースタンド)

仙台市青葉区国分町 1-3-12 スキャンダルキッズビル1F Mail guild.hongolian@gmail.com
本郷さんはSENDAI COFFEE STANDのほか、市内で美容室4店舗を営む経営者。自転車でのコーヒー販売は15年5月に始め、固定店舗を求めるファンの声に応じて同年12月に店を構えました。移動販売は週1、2回。主に市中心部を回り、住宅展示場やイベント、公園などの一角に自転車を止め、販売しています(詳しい場所はHPで)。<http://coffee-stand.com/>
東北のコーヒーを集めた「コーヒーフェス」など、人と街をつなぐ新たなイベントも計画中です。



食が結ぶ、地域のおいしい関係 SENDAI EAST KITCHEN

仙台市東部は、田園地帯が広がり、稲作・農業が盛んな地域です。昔から、地元で穫れた農作物を活かした料理が食卓に並び、それが食文化として受け継がれてきました。そんな仙台市東部の農作物や食文化を資源にして、地元ならではの魅力を伝えようと、復興のまちづくりに取り組んできた市民団体と、地元の生産者達が協力して行う取り組みを紹介します。



地元の食を味わい、地元を知る

2015年11月23日(月・祝)、若林区荒井の仙台市農業園芸センターで、仙台市東部の食を体験するイベント「SENDAI EAST KICHEN(センダイイーストキッチン)」が開催されました。強い甘みが特徴の仙台井土ねぎ、熱処理をしないこだわりの製法でつくる岡田味噌を使った商品など、仙台市東部の特産を生産者が販売したり、地元の食材で作った豚汁などの「お振る舞い」がありました。昔ながらの暮らしぶりを伝える資料展示や、住民がこれからの暮らしを話し合うトークイベントもあり、来場者は100人を越えました。

このイベントは、「せんだい東部復興市民会議(以下、復興市民会議)」という市民団体と、地元の生産者の協働で開催しました。

地域と外のつながりを力に

仙台市東部沿岸地域は東日本大震災により、津波で家や農地が大きな被害を受けました。復興に向けた課題に丸となって取り組むため、2013年8月、若林区三本塚町内会会長の小野吉信さんと、当時の宮城野区南蒲生復興部代表の芳賀正さんが代表世話人となり、区を越えて25町内会などと、復興市民会議を結成しました。専門家を交えた勉強会、仙台市へ要望書の提出、市職員を招いたハザード

マップ勉強会などを行ってきました。しかし、住宅再建が進み、津波で塩害を受けた土地でも農業が再開始めると、「今までと違う課題が見えてきた」と代表世話人の芳賀さんは話します。

「生活が落ちついてきても、農業の再開を諦める人もいて、生業の再建はまだこれから。生業を応援するためにも、中心市街地の人たちに仙台市東部へもっと目を向けてもらいたい」と続けます。同じく代表世話人の小野さんも、「豊かな農作物と受け継がれる食文化が魅力の仙台市東部を、身近に感じて関心を持って欲しい」と、SENDAI EAST KICHENを企画した経緯を話します。

復興市民会議の依頼を受けて、多くの生産者が販売や農作物の提供に名乗りを上げました。地元で採れた農作物を使って加工・販売を行う「岡田手づくりアグリ」は、岡田味噌を使った南蛮味噌や味噌おにぎりなどを販売。代表の菅野陽子さんは、「地元の野菜を使った商品を知って欲しい」と、参加しました。仙台井土ねぎの販売を行う井土生産組合の経理部長大友新さんは、「また買いたいと連絡をくれる人もいた」と、新しいつながりを話します。

生産者の「地元の農作物・加工品を買ってほしい」という思いと、復興市民会議の「仙台市東部の魅力を感じて欲しい」という思いが重なって、SENDAI EAST KICHENが動き出しました。当日は、生産者や地元の



■連絡先：せんだい東部復興市民会議(代表世話人 小野吉信・芳賀正)
TEL 022-289-3773 (9-18時) E-mail sendai_toubu_fukkou@yahoo.co.jp

●SENDAI EAST KICHEN vol.2 2016秋
日時：2016年11月23日(水・祝)午前11時～午後2時
場所：仙台市農業園芸センター

●もち米稲刈り体験@仙台平野
日時：2016年10月15日(土) 午前10時～午後12時
場所：二木町内会集会所 参加費：3,000円(収穫したもち米付き)要申込
※詳しい内容・申込みは、せんだい東部復興市民会議までご連絡ください。

人と来場者の交流が生まれ、にぎわいました。

今年のSENDAI EAST KICHENでは、イベントとして若林区二木で農業体験も開催。11月のイベント当日には、地元の餅食文化を取り上げようと企画を進めています。

食から考える、仙台市東部の今

小野さんは、「仙台市東部はどんどん変化している。地元も外も巻き込んで、これからの仙台市東部のことを考えていきたい」と、話します。SENDAI EAST KICHENで生まれた、生産者と消費者の小さな接点。それは農作物の消費や来訪者の増加につながり、仙台市東部をもっと魅力あるまちにしようとする住民の力になっています。(取材・文 黒川夕紀)

仕事帰りに立ち寄れる“大人の食育講座”「仙臺農塾」

美味しい料理を味わいながら、こだわりをもった生産者などからお話を聞く、大人の食育講座です。10月は、仙台のオーガニックを盛り上げるキャンペーン「Organic Week Sendai 2016」期間中に合わせ、農家を講師に迎え、自然農法による米づくりのお話を伺います。

■日時：10月26日(水) 午後7時～午後9時 場所：Star garden(仙台市青葉区中央4-9-7 2F)
会費：4,500円※予定 主催・問い合わせ先：(公財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)
HP <http://www.melon.or.jp/melon/> TEL 022-276-5118
■Organic Week Sendai 2016 <http://www.organicweek.info/>

お役立ち本 いちばん未来のアイデアブック フツワの高齢者のみなさんが考えました
監修：ルース・キャンベル、黒川由紀子 / 編者：慶成会老年学研究所 / 出版：木楽舎

高齢者になると日常生活においてできないことが増え、不自由を感じるが多くなります。高齢者とのセッションとヒアリングをもとに、「カラダ」「記憶」「食」「人づきあい」などの不自由を解消するためのアイデアが集められました。自分とは違う立場の人の状況を想像し、歩み寄り、知ることが、社会全体の快適さにつながる。あらゆる世代の人たちにおすすめです。



おトクな本 親子、地域の人々の絆を深める「食育」の場づくり
宮城野親子で料理プロジェクト

毎月1回、日曜日、食文化に触れながら地域の人たちの交流の場を作ろうと、料理教室を開いています。対象は、3歳～小学校高学年程度の子どもやその家族。会場は、宮城野区内を中心とした市民センターです。調理活動の準備や片付け、会場準備や子どもたちとの触れ合いなど、料理を楽みながらお手伝いしてくれるボランティアを募集中です。開催日時や詳しい募集要項、お問い合わせはホームページをご覧ください。
HP <http://officemanato.wixsite.com/miyaginocooking> Mail miyagino-oyako@mirror.ocn.ne.jp



「できるかな」のつき合い方 鶴巻児童館子ども劇団 わんにゃんぶう

「わんにゃんぶう」は、仙台市宮城野区鶴巻児童館の児童クラブに通う、2年生から5年生までの9名が所属する子ども劇団です。今年で結成8年目。児童館や地域のおまつり、市内文化施設などで練習の成果を披露しています。

今回の朗読劇のタイトルは「この星のメロディー」。「どこか遠くに出かけたい...」。2人の女の子のつぶやきではじまります。上演時間は、約20分。子どもたちの堂々としたまっすぐな声は、会場を訪れた20組ほどの親子連れを朗読劇の世界に引き込みました。「難しかったけど、楽しかった」。長いセリフを演じた小学3年生の女の子が得意げな笑顔を見せてくれました。

劇の練習は、児童クラブの時間を利用して週1回1時間ほど。脚本を手掛ける仙台市在住の詩人武田こうじさんが、立ち会いながら行います。演者のリズムに合わない時は、用意したセリフを変えることもあるそうです。

武田さんは、子どもの中に芽生えた「わからない」や「自分にできるかな」に寄りそうことを大切にしているといいます。子どもとの関わりは、時に難しいこともあります。わんにゃんぶうの劇づくりは、一方的に教えるのではなく、子どもがなにかやり始めた時に、一緒に考え、意見を交わすことの大切さを教えてくれました。



▲8月10日(水)は、仙台文学館(仙台市青葉区)で朗読劇の公演がありました。(撮影：佐々木隆二)

■連絡先 仙台市鶴巻児童館(管理運営団体：NPO法人みやぎ・せんだい子どもの丘)
〒983-0024 仙台市宮城野区鶴巻1-15-32
TEL: 022-259-8920 FAX: 022-259-8920